

白山ふるさと文学賞

第十一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生 作文の部 優秀賞

「将来の夢を見つげるために」

北辰中学校三年 山島 花音

私の将来の夢は決まっていない。医師、薬剤師、教師、管理栄養士、これまでに考えてきたものはあるが、夢と断言できるものは一つもない。そんな私だが、これから先、挑戦と経験は大切にしていきたいと思う。そう思ったのは、私が市の主張大会に出場した時からだ。

市の主張大会とは、自分の意見を作文にまとめ、審査員や親の前で発表する大会だ。そこで優秀な成績を収めることができれば、さらに上の大会へと進むことができる。そんな大会に、迷ったが私は出場すると決めた。そこからが大変だった。まず原稿を書くのだが、自分の経験や主張をつなげることが難しく、かなり時間がかかってしまった。さらに発表練習では早口の癖が直らずに苦労した。そんな状態だったせいも、本番への不安と緊張は高まっていくばかりだった。そんな感情を募らせながら挑んだ本番は、不思議と楽しかった。ステージに立ち、聴衆に向かって、一礼。遠くのほうに視線を向けながら、ふわふわとした感覚で私は喋った。そして、この感覚が味わえるのも多くはないだろうな、と思った。

全ての発表が終わり、結果発表があった。私の結果は良いものではなかった。その時ばかりは落ちこんだ。苦労して、でも本番は楽しくて、結果で落ちこんで。主張大会に関わっていた一ヶ月で自分の感情がすいぶん動いた。もちろん緊張などは日常の中でも感じるが、あの時の感情は妙にリアルで自分のすぐそばに迫っている感じがした。この感情は、主張大会に出なければ味わえなかったかもしれない。それに気づいて「大変だったけど、出てよかったかもな」と思った。挑戦によって、現場でしか出会えないものに出会えたからだ。そして、結局物事はやってみるまで分からないのだなと思った。やる前から無理と決めつけずにとりあえずやってみることで、見えてくる世界もあるのかもしれない。それで失敗したこともあったが、そのたびにいろいろなことを学べた。そこで私は挑戦と、とりあえずやってみること＝経験の大切さを知った。実際の出来事は自分の想像をはるかに超えてし

まうものだと思う。

経験の大切さはこんなところにもあった。そういえば、「経験」についての作文は小学校の卒業文集にも書いたはずだと思い、久しぶりに卒業アルバムを開いてみた。そこには、図書委員長になったこと、そこからたくさんの経験をしてきたことにより自分は強くなった、と書いてあった。これを読んだ私は、経験による学びの次には、自分自身の成長があると思った。無駄な経験なんて一つもなく、すべて何かしらの方面で意味を持っている。挑戦↓経験↓学習の過程は常に新しい何かを生み出すと思う。

例えば、現在私が興味を持っている科学の分野。今、私たちが当たり前に使っている照明器具や車などの乗り物はずっと昔にはなかったものだ。だが、誰かが発明してくれたおかげで、夜でも部屋の中が明るく、遠く離れた場所に行くのも簡単だ。だから電灯や映写機を発明したエジソンはすごいと思う。多くのものを発明したこともそうだが、「ガス灯よりも明るくて便利なものを作ってみよう」「絵を布や壁に映すことのできるのか？」と考えて、それを行動に移したこともすごいと思った。今となっては当然のように存在しているのだが、昔はこれらの考えは「新しいもの」であり、理解しがたい人もいただろう。私だったら、批判や理解されることが怖くて、なかなか行動に移せないかもしれない。発明と、それらの動機となるチャレンジ精神が今の文明を作ったといっても過言ではないと思う。やってみようという挑戦と、実験による経験、そこから考察して学習したこと。「新しい何か」どころか、「文明」が前述の過程から生まれてしまった。

これから私は、挑戦するか、しないかを問われる場面に多く出くわすだろう。受験生の私は、志望校を決めなければいけない。その時、目標を下げないでいられるかどうか自信がない。「学力が低いから」と言つて、楽な方向に流されてしまうかもしれない。そうしたら私は、主張大会の経験を思い出そうと思う。あの時のチャレンジ精神を武器

にして、いろいろな世界に飛びこむことができたらいいなと思う。その世界で多くの経験をjして、今の自分に胸を張れるような人間になりたい。そしていつか挑戦と経験の先で、自分に合った最良の仕事を見つげたい。

